

ミニ MBA 講座に興味を持たれている皆様へ

皆さんは今、六甲クラブで毎年開催されているミニ MBA 講座を受けようか、検討しておられるのだろーと思ひます。この1年間で大きな気づきと学びを得た私としては「ぜひ受講して下さい」と申し上げたいと思ひます。

私がこの講座を受けようと思ひ立ったのは、会社役員として海外の会社の経営層と話し交渉する中で、急増している MBA を取得した若い経営者 (COO、GM 等) のロジック・考え方・物事の進め方に共通項が多いことに気づいたことがきっかけです。彼らと対等に議論し交渉において優位に立つには相手のロジックのベースを勉強しなす必要があるな、と思ひ、自分なりに MBA 関連の本を読んだりはしていたのですが、表層的な部分にとどまらず通貫する哲学的・思想的なベースまで知る必要があるな、とも感じていました。

そんな中で多くのご経験をお持ちの大住先生の講義を一年間受けさせていただき、表層的な MBA マニュアル本には書かれていない哲学的・思想的バックグラウンド、ものの考え方などを含めた全体像を知ることができたことは本当に大きな収穫であり成果でありました。また他メンバーの方々のご意見をレクチャーレビューや講義の中での議論で知ることができたのも実も楽しかったです。

一方、私もまだまだビジネスで現役でありますので、出席するための時間のやりくりには、かなり苦勞したことは率直に告白せねばなりません、兎にも角にも何とか調整できました。これは補講を含め一ヶ月に2回の受講チャンスを下さった大住先生の熱意とご厚情によるものと感謝の気持ちでいっぱいです。

社会人にとって本格的な学びの機会というのはそう多くはありません。

皆さんがこれからマネジャー、経営者としてグローバル・ビジネスフィールドで海外の会社と仕事をするを本気でお考えであれば、是非受講されることをお薦めしたく思ひます。

(他に聞きたい事がありましたら、遠慮なくご連絡ください。Joji.fujitsuka@gmail.com)

私の履歴書

1977年 大阪府立千里高等学校卒
1981年 神戸大学理学部 地球科学科 卒
1981年 原田産業株式会社 (中堅貿易商社です) 入社 工作機械部門 営業配属
1994年 同社 造船部門 セールスマネージャー
2007年 同社 建築部門 ゼネラルマネージャー
2010年 同社 執行役員 (造船、建築、情報通信部門)
2013年 同社 取締役 東京支店長

私は、神戸大学法学部を卒業後、司法試験を受験し弁護士資格取得後、法律事務所で勤務した後、現在、企業の法務部でインハウスロイヤーとして勤務しております。

私が本講義を受講しようと思ったのは、私の専門分野である法務の関連分野として MBA 科目に以前から関心を持っていたこと、MBA 科目に関する知見を深めることは企業内で法務を担当するにあたって有用であろうと思っていたこと、また、MBA 科目を網羅的に取り扱う本講義の年間シラバスの内容に魅力を感じたことが理由です。

本講義を受講することを決めてから気が付いたことなのですが、私と大住先生とは偶然にも同郷でした (何と先生がかつて私の母校 (高校) のすぐ傍に住んでいらっしやっただという偶然)。大住先生と私の故郷は、兵庫県北部の松葉ガニ、但馬牛、城崎温泉などで知られている但馬 (たじま) という地方です。最近でこそ “日本のマチュピチュ” と呼ばれる竹田城が有名ですが、大住先生と私の故郷である但馬地方はいわゆる田舎、過疎地として、東京で仕事などで同郷の方に会うことは滅多にありません。ましてや私が偶然関心を持った本講義の講師をされている大住先生が同郷であったことは大きな驚きであると同時に、何か強いご縁を個人的に感じてしまいました。

本講義では、大住先生が、広大に広がる MBA 科目のエッセンスを、月 1 回×13 回という密度の濃い講義で網羅的に教えてくださいます。本講義内容は、経済学、経営学、マーケティング、会計、ファイナンス…と多岐にわたります。しかし、本講義の特徴は、単に数多くの科目が取り上げられているだけではなく、実際にアメリカのビジネススクールで MBA を取得された大住先生から各科目の “エッセンス” を学ぶことができ、MBA 科目の全体像を体系的に理解することができるように思います。

唯一、受講生に課される課題は、毎月 1 回のレクチャーレビューの提出です。日々の仕事の傍ら毎月 1 回レクチャーレビューを提出するのは案外大変です。私も途中挫折しかけてましたが、遅れながらも何とか食らいつき、最終的に全講義分のレクチャーレビューを提出しました。皆さんも本講義の受講開始後、日々の業務に追われ、レクチャーレビューの提出が滞ると、段々と後ろめたくなり、本講義への足が遠のきそうになることがあるかもしれません。しかし、仮に少し遅れてしまっても (ただし、本来は毎回締切厳守が求められており、勿論遅れない方が良いのですが。) 何とか食らいついて毎回提出し、最後まで受講してほしいと思います。途中で受講を諦めてしまっただけは勿体ない内容の講義が待っています。

本講義のレジュメ内で取り上げられていた、LIXIL グループ創業者潮田健次郎氏の “入り口を突破させる事が教育というものだ” という言葉が印象に残っています。本講義は、大住先生が MBA 科目のエッセンスを網羅的に教えてくださいます、まさに “MBA 科目の入り口” を突破させてくれる講義であったと思います。その講義内容に知的好奇心は刺激され、受講前は未知の世界であった MBA 科目の扉を開くことができました。

少しでも本講義に関心を持たれた方は是非本講義の門戸を叩いてください。きっと講義内容に知的好奇心は刺激され、皆さんの知見を広げることができるものと思います。皆さんが本講義を受講され、MBA 科目の扉を開かれますことを祈念しております。

(他に聞きたい事などありましたら、遠慮なくご連絡ください。k.ryota1006@gmail.com)

2018年1月31日